

メキシコにおける仙台七夕まつり 開催支援事業について

仙台市市民局交流政策課

1 はじめに

2011年11月13日、メキシコシティにある日墨協会（メキシコにおける日系人の全国組織）主催の秋祭りにおいて、仙台が誇る七夕のくす玉・吹流し、そして伝統の七つ飾りが、会場を美しく彩りました。

この七夕飾りは、仙台市立連坊小路小学校の七夕クラブをはじめとする児童の皆さんが「星に願いを」というテーマで作成したもので、8月の仙台七夕まつりでは、地域の人々の目を楽しませていたものです。約1か月の船旅を経てメキシコに送られ、秋祭りの会場では、仙台七夕の特色とされる七つ飾りについての説明やメッセージとともに、来場した約7,000人の方の目を楽しませました。また、会場内で流れた案内放送では、七夕の歴史や、今年の七夕まつりに東日本大震災犠牲者の鎮魂と復興への願いが託されたことが触れられました。来場された方々に日本文化への関心と理解を深めていただくとともに、仙台・日本へ想いを馳せていただくきっかけとなりました。



秋祭りでの展示の様子

2 メキシコとのつながり、 事業実施まで

仙台とメキシコの間には、長く、深いつながりがあります。江戸時代、伊達政宗の命を受けた支倉常長がローマへ向かう途中で立ち寄ったという歴史的経緯から、本市とアカプルコ市が姉妹都市提携を結んでいるほか、明治時代には、ラテンアメリカへの移民のさきがけである「榎本殖民」に本市を含む宮城県出身者が参加し、メキシコ社会への定住において中心的な役割を果たしたと伝えられています。

日墨交流400周年を迎えた、2009年から2010年にかけては、両国において記念事業が開催されましたが、本市においても、2009年には市民向けイベントを開催し、2010年には公式訪問団をアカプルコ市へ派遣して「日本広場」の開所式や、姉妹都市提携の契機となった支倉像の移転除幕式に参加しました。

その際お会いした、メキシコ宮城青葉会（在メキシコ宮城県人会）の皆さんから、仙台・宮城とメキシコの関係の深さ、メキシコにおいても七夕まつりを開催したいと考え、以前自分たちで七夕飾りを作ってみたこと、しかしながら制作方法や材料調達など課題が多く、自分たちだけではうまく作れなかったこと、世代交代に伴う文化の伝承が課題となっていること、県人会運営の苦労などを伺いました。

青葉会の「メキシコにおいても、仙台の伝統行事である七夕まつりを根づかせたい」という熱い想いをきっかけとして、今後現地で七夕飾りを制作する上での参考資料として活用してもらうよう、メキシコへの七夕飾り送付を計画し、(財)自治



日本大使館における展示の様子

体国際化協会の助成による平成23(2011)年度地域国際化施策支援特別対策事業として実施しました。

3 震災を乗り越えて

準備を進めていた2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震および大津波が発生し、本市も沿岸部を中心に大きな被害を受けました。幸い、七夕飾りの作成・譲渡を依頼していた連坊小路小学校には大きな被害がなかったため、被災地へ寄せられた支援・励ましに対する感謝の意と、鎮魂の祈りと復興の願いを届けたいという想いを当初の目的に加えて、事業を継続することになりました。

当課では主に、七夕飾りの入手と仙台からメキシコまでの輸送に係る契約、経費負担を担当しましたが、震災による事業の遅れや運送費用の値上がり、通関手続きなど、様々な課題がありました。しかしながら、連坊小路小学校や在メキシコ日本大使館等をはじめとする関係者のご理解とご協力をいただき、児童の皆さんが作った七夕飾りを、七夕飾りについての説明や児童の皆さんからのメッセージ、今後の制作の参考資料となるDVDとともに、無事にメキシコへ届けることができました。

冒頭で紹介した、11月の秋祭りにおける展示の後も、12月の在メキシコ日本大使館において開催された「天皇誕生日祝賀レセプション」や、2012

年1月の日墨学院の文化祭において飾られており、今後も各種イベントでの活用が予定されています。4月には日墨学院から連坊小路小学校へお礼の手紙が届き、七夕飾りの送付と併せて、子どもたちの国際理解・国際交流を深めるきっかけとなりました。

4 おわりに

本事業は、メキシコにおける仙台七夕まつり開催を支援することにより、日系人社会を中心として、メキシコ全土へ仙台・日本の名とその文化を広め、交流をより一層深めることを目的として実施しましたが、姉妹都市交流の中で生まれた関係を活用したことで、アカプルコ市との交流にも密接に関わっています。今後についても、メキシコ各地において七夕飾りの巡回展示が検討されており、姉妹都市交流の推進にも繋がるものとして期待しています。

今回、震災や様々な課題を抱えつつも事業を実施できたのは、青葉会との協働によるものが大きいと感じています。県人会は県との関連が強く、これまで本市との関係はほとんどありませんでしたが、故郷への想いをもち、現地の事情にも明るいという点で、様々な場面で力になってくれました。また、青葉会の会長からは「送付された飾りを参考とすれば、仙台に行ったことのないメキシコ生まれの会員たちでも、美しく伝統ある七夕飾りを作ることができると思います」という感謝の言葉をいただきました。日系社会において課題となっている日本文化の継承という点においても一助になったものと考えています。

2013年には、支倉常長ら慶長遣欧使節団が、ローマに向け日本を出帆してから400年、また、アカプルコ市との交流も40周年という節目の年を迎えることとなります。今後とも、今回送付した、また、これからメキシコで作られる予定の七夕飾りをシンボルとして、先人が築いた国際交流の礎ともいえる貴重な絆を未来へつなげるとともに、アカプルコ・メキシコとの交流をより一層推進してまいります。